



○充実の宿泊体験

子どもたちが楽しみにしていた宿泊体験が無事に終わりました。今回の宿泊体験で、子どもたちに特に学んでほしいと考えていたことは、次の3つです。

① 災害への備え

大きな災害が起きて家に帰れなくなったときに備え、集団で生活する経験を積むこと。

② 自立・自律

自分のことを自分でできるようになるための練習をすること。SOLANでは2年生から毎年宿泊学習を行い、5年生では4泊5日のスキー合宿も予定されています。その第一歩として、自分で準備をし、自分で生活する力を育てていきます。

③ 協力

友達と力を合わせ、一つのことをやり遂げる経験を通して、協力することの大切さを学ぶこと。子どもたちの振り返りを読んでいると、「避難食があんなに美味しく食べられるなんて知らなかった」「家でも食べてみたい」「ツナ缶でろうそくが作れるなんて知らなかった」など、実際に体験したからこそその気付きがたくさん書かれていました。また、「寝袋で寝るのがワクワクした」「みんなで泊まれて楽しかった」といった感想も多く見られました。

特に印象的だったのは、学年アクティビティを通して「協力すること」の楽しさや大切さを実感していた子どもたちが多かったことです。友達と話し合い、一緒に一つのものをつくり上げ、最後にはたくさんの拍手をもらう。その経験は、「みんなでやると楽しい」「また挑戦したい」という次の意欲につながっていくのだと思います。

学年としては、この経験をこれからの学校生活にも生かしていきたいと考えています。スポーツフェスティバルのソーラン節でも、みんなで心を一つにして、見ている人の心を動かすような演技を目指していきます。一方で、踊ることが得意な子も苦手な子も、「やってよかった」「楽しかった」と思えるような活動にしていきたいと思います。

宿泊体験に向けた準備や送迎など、保護者の皆様には多大なるご協力をいただき、ありがとうございました。持ち物には全て記名がされており、忘れ物もほとんどなく、日頃からご家庭で準備を支えていただいていることを改めて感じました。

今回の宿泊体験で得た学びを、これからの学校生活やチーム探究、スポーツフェスティバルなどにつなげながら、子どもたちがさらに成長していけるよう、学年職員一同力を合わせて取り組んでまいります。今後とも、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



